



定年や任期満了を控えた隊員が企業とマッチング



自衛隊静岡地方協力本部（本部長・武田恭一 一等空佐）は7月26日（水）、グランシップ（静岡市）で開催された令和5年度静岡県自衛隊合同企業説明会に協力した。

これは一般社団法人自衛隊援護協会東京支部が主催したもので、定年や任期満了後に静岡県内で再就職を希望する陸・海・空の隊員35人と、県内での雇用を考えている94の企業・機関が参加した。

会場には各企業等が自社のポスターやモニターを設置したブースを開設し、隊員がそれぞれ興味のあるブースを訪れて面談を行った。

企業等の担当者は隊員の履歴書を見ながら現在の職種や自衛隊で取得した免許などについて和やかに言葉を交わし、パソコンやプリンターなどを使って自社の仕事内容や福利厚生、1日のスケジュールなどを紹介した。

中には自衛隊OBの社員が参加している企業もあり、自衛隊との違いや企業で働く魅力を伝えると、隊員たちは熱心にメモを取っていた。

説明会に参加した隊員は「フライダールやホテル業界に興味がある。実際に話を聞いてみて、一つの企業の中にも思っていた以上に幅広い仕事があることを知った。結婚して働く務地の希望もあるので、多くの企業からじっくり話を聞いて決めていきたい」と感想を話していた。

静岡地本は、隊員が充実した人生設計を実現できるように今後もサポートに努めていく。

陸・海・空の装備品を清水港で一挙公開 清水みなと祭り



自衛隊静岡地方協力本部（本部長・武田恭一 一等空佐）は8月4日（金）から6日（日）まで、清水港日の出埠頭（静岡市）で広報活動を行った。

これは静岡市の一大イベント「清水みなと祭り」の一環で、海の補給艦「ときわ」の公開や陸自装備品の展示、空自航空機の展示飛行などが行われた。

補給艦「ときわ」の公開には2日間2444人が訪れ、甲板や艦橋などを見学した。航行しながら艦艇に燃料を送ることのできる大きなホースや、大量の荷物を効率的に運ぶため艦内に備え付けられたフォークリフトなど、補給艦ならではの設備に見学者は興味津々な様子だった。

また、見学コースに置かれた乗艦記念思い出ノートには、カラフルなペンで描かれた船の絵や「こんなおきな船にのるのははじめて。たのしかった」「ぶねをみせてくれてありがとう」といった子どもたちの心のこもったメッセージが寄せられていた。



一方、岸壁では静岡地本が自衛隊を紹介する広報ブースを設けたほか、5日に機甲教導連隊（駒門駐屯地）が16式機動戦闘車と87式偵察警戒車、6日に第34普通科連隊（板妻駐屯地）が水トレーラー付き大型トラック、高機動車、偵察用オートバイを展示し、来場者の注目を集めた。

6日は台風の影響で補給艦「ときわ」の公開や音楽隊の演奏が中止となったものの、空自の展示飛行を見ようと岸壁には多くの市民や航空機ファンが集まった。

第11飛行教育団（静浜基地）のT-7、第1航空団（浜松基地）のT-4・T-400各練習機、飛行開発実験団（岐阜基地）のF-2・F-15戦闘機、C-2輸送機が頭上を駆け抜けると、観客は空を見上げて貴重な姿を写真に収めていた。

静岡地本は、今後も幅広い年齢層の人に自衛隊の活動を知ってもらうため、広報活動に努めていく。